

平成30年度「しがこども体験活動実践交流会」

子どもの体験活動や青少年教育に関わる機関・団体等を対象に、事例発表や意見交換等とおしてネットワークを構築し、子どもたちの体験活動の充実や活性化を図るとともに、各機関・団体の連携を推進することを目的として実践交流会を実施しました。

【日時】

平成31年 2月1日(金)

13:30~16:30

【会場】

滋賀県庁新館 7階大会議室

【対象】

- ・「しがこども体験学校」、
「地域で学ぼう『出前講座』」事業
実施団体
- ・行政関係者
(市町職員、公民館・コミュニティセンター職員等)
- ・社会教育団体、青少年教育団体関係者
- ・学校教育関係者
- ・大学生

【参加者】

64名



日程	内容
13:10	受付
13:30	開会行事 開会あいさつ 日程説明
13:40	事例発表 ①「てんびんの里ふれあい通学合宿」の取組 発表者 五個荘コミュニティセンター 館長 富田 由美子 氏 職員 松本 奈緒美 氏 ②「しがこども体験学校」事業実施団体の取組 発表者 「環境レイカーズ」 事務局 小南 慶祐 氏
14:35	体験活動に役立つSMAP（アイスブレイク） の紹介
15:05	グループ討議 ・グループに分かれて討議・情報交換 ・3グループの発表
16:30	閉会

【事例発表】

○「てんびんの里ふれあい通学合宿」の取組

「地域の子どもは地域で守り、育てる」を合言葉に、各種団体に呼び掛け、地域と子どもたちを結ぶ「協働」の通学合宿の取組について発表いただきました。

「協働」による事業の結果、世代間交流が図られ、参加した子どもたちとサポーターが街中で出会っても声を掛けあえる関係が生まれ、地域コミュニティ形成の一助となっています。

参加した子どもたちが、地域に愛着を持ち、地域の様々な活動にこれからも関わってくれることを願っておられました。



○「しがこども体験学校」事業実施団体の取組

「環境レイカーズ」から、「むくがわビレッジキャンプ」と「びわ湖フィッシャーマンズキャンプ」の2つの実践事例について発表いただきました。

2つの自然体験活動では、五感を感じ、環境問題や地域の環境社会について考えることで、自分たちのこれからの生活について見つめ直すきっかけとなっています。改めて自然体験から得られるものの大きさを再確認することができました。



【体験活動に役立つSMAP（アイスブレイク）の紹介】

実際に、体験活動で使えるアイスブレイクを、滋賀県で推進している「SMAP」という仲間づくりに効果的な手法を用いて紹介しました。

後半のグループ討議の班に分かれて行き、スムーズなグループ討議の進行につながりました。



【グループ討議】

事前に選んだテーマをもとに、60分間のグループ討議を行いました。参加者が意見をたくさん出していただけるように、今回はKJ法を用いました。どのグループも各団体の実践や悩み、課題解決のアイデア等についても活発に情報交換が行われました。

子どもの体験活動や青少年教育に関わる方々が、世代や立場を越えて交流することで、それぞれの活動に活かせるヒントを持ち帰っていただけたことと思います。

